

2024年度 学校評価 (自己評価目標・取組内容)

麻布大学附属高等学校

校訓	誠実・協調・博愛・奉仕	教育理念	夢を語り、学問を追究・実践し、誠実なる校風の基、平和社会の建設に貢献する。	達成度 (達成状況に応じた評価記号を記入する。)
教育目標	1. 個性を伸ばし、生徒一人ひとりの進路に応じた確かな学力の定着 2. 基本的な生活習慣(あいさつ・時間厳守・マナーやルールの尊重)を育み、国際化の社会に対応できる能力(情報発信力、コミュニケーション力・プレゼンテーション力等を総合的に備えた能力)の育成 3. 自ら課題を見つけ、自ら考え解決をめざす能力の養成 4. 多様な価値観を認め合い、他者を思いやる心の育成 5. あらゆる生命や自然環境を尊重する精神の涵養			「S」評価の観点を上回って実施できている。 「A」評価の観点を十分に実施できている。 「B」評価の観点を十分には実施できていない。 「C」評価の観点を実施できていない。

校内評価(自己評価)						外部評価
評価項目	重点目標	具体的方策	達成状況	達成度	次年度の課題・改善方策	関係者評価
学力の向上・授業改善	教育における質の向上および英語力の醸成	引き続き「公開授業週間」を設け、保護者が授業を評価できる機会を設ける。また、コロナ禍で中止されていた教員間の相互授業参観を再開し、教員それぞれの授業に生かす一助とする。英語については、3年生の全クラスを主に実力別に10クラスに再編し、それぞれの目的や実力に沿った学習を推進する。	公開授業は139組の参加があり、盛況に終わった。英語のクラス分けも効果的に運用できている。	A	保護者の参観機会は、客観的評価の重要性から、引き続き確保したい。英語のクラス分けは、今年度の状況検証を踏まえながら継続する。	
	ICT教育の推進	iPadおよび電子黒板「ミライタッチ」の運用を深め、より効率的な授業・多様な授業の構築を推進する。とくにClassroom等のアプリをより活用し、生徒との間での情報共有を効率化する。	各教員が使用に慣れ、有効に利用できている。	A	ハードのバージョンアップを含め、より幅の広い使用方法を探りたい。	
	補習授業及び教育セミナーの充実	夏期集中講座・一般入試直前講座・指名学習等の主要5教科を中心とした補習授業を企画し、生徒の向上心や競争心を喚起し、主体的な学力向上に繋げる。夏期講習について、昨年度までの反省を踏まえ、期間を2週間に限定して行う。	夏期講習の期間制限は、生徒にとって休業中の予定の効率化に寄与した。	A	講習の発信方法(オンライン・対面)について、現状に即したやり方をひきつづき検討していきたい。	
進路指導・キャリア教育	進路意識の向上	生徒が進路を考えるきっかけを作るため、職業・学問適性検査や説明会、卒業生による講演会、生徒向け進路説明会を実施し、多様な職業や社会情勢、就職状況について理解を深める機会を提供する。	進路指導に関するアンケートを実施したところ8~9割の生徒が満足していると回答した。	A	「卒業生の話を聞きたい」という意見も多く見られたため、そうしたイベントを企画する。	
	卒業生進路	生徒が自身の進路希望を実現し、自己実現の力を育むことを目的に、全国学力模試や大学説明会、一般入試出願説明会などを実施する。	進路実績が躍進した昨年度とほぼ同水準の実績を見込む。	A	大学入試が大きく変わる年なので、引き続き適切なタイミングで適切な情報を提供し、進路実現に役立ててもらう。	
	保護者への情報提供	生徒の進路決定に重要な役割を果たす保護者に向けて、最新の進路情報を発信・共有し、学校と保護者が連携して進路指導に取り組む体制を整える。	保護者向け説明会は全て、会場実施とYoutube配信の2本立てで実施し、より多くの保護者の方々へ情報を伝え、理解を得ることができた。	A	卒業生に聞き取った「保護者にしてもらえてうれしかったこと/いやだったこと」を踏まえ、情報提供等を引き続き行っていく。	
生活指導・生徒支援	笑顔あふれる学校生活をおくる	学校に来ることで学びと充実感を得られるように促す。面談やコミュニケーションの増加を意識し、小さな不安や悩みから寄り添っていく。通学マナーや服装に関しては風紀委員の活躍を促す。	担任と生徒間でのコミュニケーションに関して、さらに増やしていく必要があると感じる	B	教員間でのコミュニケーションを増やし、どのような方法で生徒とコミュニケーションをとっていくか模索していく	

	いじめ防止	いじめ防止講演（年1回）の開催、いじめアンケート調査（年2回）の実施を柱とした、いじめの未然防止及び早期発見・早期対応に取り組む。教員へもアンケートを行い、生徒の些細な異変にも気づくように連携して指導する。	詳細に行うことができた	A	継続していく	
	リテラシーの醸成	WEBやSNSにおいて自己を守るための常識や行動を紹介する。	全学年、SNSやWEBの使用方法などの講義を実施した。	A	難しい問題であるからこそ、これからも教員間での共有を図っていく。	
学校安全衛生管理・学校運営の調整	入学式・卒業式および始業式・修了式・離任式の企画と運営	節目となる儀式で、日頃身につけた礼儀作法を確認すると共に、学校生活における目的を共有し、前向きに自ら取り組む姿勢を養う。	厳粛に執り行うことができた。	A	更なる運営改善について余地がないか検討する。	
	学校安全管理と防災訓練	防災における危機管理マニュアル等を整備し、防災訓練を実施する。また、教職員へ周知徹底し学校安全の意識高揚を図る。今年度は避難経路のみならず、通学中や休み時間、放課後における非常時の対応も作成した。	災害時の避難について、全校で基本を確認し行動することができた。	A	授業中や休み時間等、様々な場面での想定を踏まえて、学校安全意識の高揚を図った。	
	後援会、同窓会活動協力	後援会においては、保護者の学校への参画に対する満足度を高める。同窓会においては、名簿の管理など諸問題をともに解決できるよう目指す。いずれも信頼関係を深めながら、円滑な学校運営を目指す。	保護者の参画機会が増え、活動の活性化を図ることができた。	A	保護者がさらに満足できる活動を目指す。	
生徒会指導・生徒の自主自立	学校行事の企画	数々の学校行事を生徒主体で実施できるよう、コーチングに努める。主体的かつ創造的な生徒会活動の活性化をサポートする。生徒自治を強化するために学年・委員会を超えたつながりを増やす。	準備期間を延ばすことで、各行事のクオリティを向上させた。	A	生徒主体の運営から、さらにもう1歩踏み込み「効率性」や「社会貢献」等の生徒の学びの機会と結びつける。	
	部活動の運営・管理	各部活動に「月間予定」を作成依頼し、活動場所の割り振り、調整・管理を行う。各部活動が活動するにあたっての予算執行を補助する。 部活動指導補助員を活用し、教員負担の軽減を図る。 熱中症・落雷に対する安全対策を十分に行い、事故を防止した。	気候に合わせた熱中症対策を講じた。	A	生徒の満足度と教員負担のバランスを注視していく。	
	芸術鑑賞	芸術鑑賞における演目を選定し、その実施に向けて企画運営を行う。生徒達が日常で見ることが少ないものを提供し、価値観の多様化を育成する。一般的なマナー・モラルの教育へつなげる。	3年間を通じて様々な演目を鑑賞し、芸術への理解を深めている。	A	所作、振る舞い等の学習の場としても活用していく。	
入試広報・生徒募集	安定的で質の高い生徒の確保	学則定員 258 名以上の入学生が確保できるよう、引き続き適正な内申基準の設定、効果的な入試制度の構築を図る。	適正な入学者数を確保できた。	A	引き続き安定的で学力水準の高い生徒の獲得を目指す	
	広報活動の効果的かつ適正な運用	中学生保護者に対する説明が、教員によって個人差が生じないよう、マニュアルの徹底を図り、説明資料の統一と共有化を図る。教員や生徒の振る舞いによって、本校の印象が大きく左右されることを学校全体で自覚し、来場者に対する丁寧な対応を徹底する。 HP 等による学校情報や説明会のイベント情報を迅速に発信する。	概ね達成できた。	A	引き続き効果的かつ効率的な運用を推進する	